

# 『立命館言語文化研究』 26巻 1号～30巻 4号 総目次

26巻 1号 2014年 10月

## 国際ワークショップ

### 「遊戯, メディア, アイデンティティ」

ホモ・ルーデンス 2.0

ジョス・デ・ムル／檉田祐一郎, 雁木 聡, 原 草平 (訳) pp. 1- 18

規則と自由の弁証法としてのゲーム—〈ルールの牢獄〉でいかに自由が可能か？

吉田 寛 pp. 19- 27

## ヴァナキュラー文化研究会

### レクチャー・コンサート&国際シンポジウム

#### 「日本とアメリカ, 歌の架け橋—スティーブン・フォスター歌曲の受容と展開」

はじめに

ウェルズ恵子 pp. 30

〈英文〉The Expansion of Stephen Foster Songs in Japan:

from their Reception in the Meiji Period to Acculturation in our Digital Age / Program

Keiko WELLS pp. 31- 33

#### 第1部：基調講演

〈原文〉Stephen Foster's Songs as American Vernacular

Deane L. ROOT pp. 35- 47

〈翻訳〉スティーブン・フォスターとアメリカ

ディーン・L・ルート／湊 圭史 (訳) pp. 49- 62

#### 第2部：シンポジウム

〈原文〉American Music in Meiji Era Japan

Sondra Wieland HOWE pp. 63- 70

〈翻訳〉明治時代におけるアメリカ音楽の受容

ソンドラ・ウィーランド・ハウ／佐藤 渉 (訳) pp. 71- 78

スティーブン・フォスター再発見

宮下和子 pp. 79- 97

〈原文〉Predicting the Future of Foster Songs

Deane L. ROOT pp. 99- 101

〈翻訳〉フォスター歌曲の未来

ディーン・L・ルート／佐藤 渉 (訳) pp. 103- 105

『立命館言語文化研究』 21巻 1号～ 25巻 4号 執筆者索引

pp. 107- 114

『立命館言語文化研究』 21巻 1号～ 25巻 4号 総目次

pp. 115- 135

26巻 2号 2014年 11月

## 2013年度 連続講座「バイリンガリズムをほりさげる」

はじめに

崎山政毅 p. 2

第1回 「多言語主義の過去と現在」

多言語主義の過去と現在—近代日本の場合— 安田敏朗 pp. 3- 20

第2回 「世界文学のなかの日系文学～言語と言語の狭間で～」

日系アメリカ人の文学活動におけるバイリンガリズム

—強制収容と国家への忠誠・言語・アイデンティティー— 水野真理子 pp. 21- 36

バイリンガリズムと移民文学—水野真理子氏へのコメント— 日比嘉高 pp. 37- 41

第3回 「バイリンガル脳を覗く：帰国生と国際結婚家庭の子供達を対象に」

日英バイリンガルの言語接触とバイリンガリティー 田浦秀幸 pp. 43- 63

第4回 「文化翻訳のバイリンガリズム—複数言語のせめぎあいから」

文化翻訳のバイリンガリズム—複数言語のせめぎあいから— 砂野幸稔 pp. 65- 74

いのちの翻訳—社会人類学のために— 真島一郎 pp. 75- 90

個別論文

Découpage syllabique du français et difficulté de lecture Bertrand SAUZEDDE pp. 91- 106

Revitalizing Dying Languages: A Case Study Michael James DAVIES pp.107- 117

26巻3号 2015年2月

特集 国際カンファレンス「風景のアヴァンギャルド，風景のポストモダン」

国際カンファレンス：風景のアヴァンギャルド，風景のポストモダン 仲間裕子 pp. 2- 4

NextNature. Sublime natural and technological landscapes Jos de MUL pp. 5- 23

‘A Dark Insect Swarming’: Wyndham Lewis and Nature Paul EDWARDS pp. 25- 42

英国モダニズムに見る波と戦争の風景—光琳<松島図屏風>との比較検討から—  
要 真理子 pp. 43- 53

風景の反転：1970年前後の問題 林 道郎 pp. 55- 66

「風景のポストモダン」をめぐる 吉岡 洋 pp. 67- 77

個別論文

芸術文化政策をめぐる政府の中立性の考察 石川涼子 pp. 79- 90

ジャン＝リュック・ナンシーの身体論—『コルプス』読解を中心に— 柿並良佑 pp. 91- 105

法助動詞 devoir の真理的用法—語用論的観点から考察した意味効果— 岸本聖子 pp.107- 125

留学生との相互学習型活動における日本人学生の言語的調整行動と学び  
—言語的共生化における「協働」の過程に注目して— 清田淳子 pp.127- 150

Efficacité des méthodes d'enseignement du système vocalique français  
chez les apprenants japonais Bertrand SAUZEDDE pp.151- 165

26巻4号 2015年3月

2012-2014年度萌芽的プロジェクト研究「バイリンガリズム研究会」特集

Bilingualism as a First Language in the Japanese Context

田浦秀幸, 森(三品)聡美, 難波和彦, 井狩幸男 pp. 1- 24

Introduction

Hideyuki TAURA

17-Year Longitudinal Narrative Development in a Non-Dominant

Language of Two Japanese-English Bilingual Siblings

Hideyuki TAURA

The Locus of Cross-Linguistic Influence in Simultaneous Japanese-English

Language development

Satomi MISHINA-MORI

Analyzing Balanced Bilinguals' Code-Switching Using Systemic Functional Grammar

Kazuhiko NAMBA

Perspectives on Bilingualism Studies with the Help of Brain Imaging Techniques

Yukio IKARI

日本人移民をめぐるメディア研究

「メディアと日系人の生活研究会」の報告にあたって

河原典史 pp. 25- 26

日本観研究—アメリカ人を例として—

山本剛郎 pp. 27- 40

『紐育新報』と邦人美術展覧会

—角田柳作の The Japanese Culture Centre とのかかわり—

佐藤麻衣 pp. 41- 53

メディアとしての卒業アルバム

—ヒラリバー日系アメリカ人収容所における高校生活の表象分析—

和泉真澄 pp. 55- 72

「リトルブラウンマン (little brown man)」をめぐる—考察

—アメリカの包摂的視座から見た日本人の膚の色—

デイ多佳子 pp. 73- 86

ブラジル・ノロエステ地方における日本語新聞の果たした役割

半澤典子 pp. 87- 101

『女性満洲』と戦時下のいけ花

小林善帆 pp.103- 114

社会正義とカタストロフィ：リスク・責任・互惠性

Special Issue on Social Justice and Catastrophe: Risk, Responsibility and Reciprocity pp.115- 116

Risk, Responsibility and Reciprocity

Paul DUMOUCHEL pp.117- 118

Negative Reciprocity at the Rashō Gate: The Dynamics of Social

Breakdown and the Role of the State

Mark R. ANSPACH pp.119- 128

Reciprocity: Nuclear Risk and Responsibility

Paul DUMOUCHEL pp.129- 142

互惠性と責任の政治学—リスク現実化の「前」と「後」—

中山竜一 pp.143- 152

Immunities: Life in a Fukushima World

Adam BROINOWSKI pp.153- 179

カタストロフィの「消費」を超えて

—ポストフクシマ反原発運動と新たな政治主体の登場—

田村あずみ pp.181- 197

Nature and Justice in Early Confucianism: a Perspective on the Ecological

Catastrophes of Modern China

牛 革平 pp.199- 214

Justice after Catastrophe: Responsibility and Security

宇佐美誠 pp.215- 230

運の平等論とカタストロフィ	井上 彰	pp.231-247
権利・不確実性・互恵性とリスク評価	犬飼 渉	pp.249-268
韓国における ALS の人を支援する制度の現在とその改善可能性	安 孝淑	pp.269-283
観点としてのリスクと公共的相互性	後藤玲子	pp.285-295
<b>個別論文</b>		
从“认知”到“语用”—关于复句对外汉语教学的探讨与研究—	张 文青	pp.297-315
認知言語学的アプローチによるスペイン語語彙学習・指導に関する新提案（その4）		
—「図地分化」の導入—	福森雅史	pp.317-330
大学英語教育における評価の「無力化」と「実用化」に関する一考察		
—論文“A Nice Derangement of Epitaphs”を問題提起として—	山中 司	pp.331-344

27 巻 1 号 2015 年 10 月

2014 年度国際言語文化研究所連続講座 西川長夫—業績とその批判的検討

第 1 回 「戦後日本文学と国民国家論—廃墟の光を求めて—」

西川長夫『日本の戦後小説—廃墟の光』を考える—文学と戦争責任—	中川成美	pp. 3-13
廃墟の光に見られる「暗い絵」—西川長夫先生と野間宏—	Brett de Bary	pp. 15-22
非国民の反国民国家論—坂口安吾の謀叛—	林 淑美	pp. 23-33
野間宏『真空地帯』と国民国家論—国民化される肉体の裂け目—	内藤由直	pp. 35-49
第 2 回 「国家イデオロギー装置としての大学—そこで研究・教育するということ」		
はじめに	高橋秀寿	pp. 51-52
国家のイデオロギー装置としての大学—西川長夫と批判的知の可能性—	今野 晃	pp. 53-64

「廃墟」としての大学で生きること—国家イデオロギー装置と脱出の回路—

番匠健一 pp. 65-76

第 3 回 「韓国における国民国家論」

はじめに	高橋秀寿	pp. 77-78
国民国家は「どう」超えられるべきか？		
—韓国における西川長夫をめぐる議論を中心に—	金 杭	pp. 79-86
ボナパルティズム論から私論へ—西川長夫の「国民国家論」と植民地朝鮮—	沈 熙燦	pp. 87-101
「引揚少年」としての西川長夫と韓国	原 佑介	pp.103-106

第 4 回 「国民国家論の越え方」

はじめに	中本真生子	pp.107-108
「国民国家論」と世界史	松塚俊三	pp.109-124
国民国家論と戦後歴史学—「私」論の可能性—	加藤千香子	pp.125-139
国民国家論がたちあがるとき	長 志珠絵	pp.141-145

西川長夫の国民国家論と「移民」	崔 博憲 pp.147-154
<b>第5回「〈新〉植民地主義論の射程」</b>	
はじめに	西 成彦 pp.155-157
国民国家と植民地主義—最後の海外県マイヨットを手がかりに—	平野千果子 pp.159-174
西川長夫の著作における〈新〉植民地主義のテーマについて	中村隆之 pp.175-180
都市の植民地主義と「棄民」—寄せ場・野宿の思想と実践からの問い—	原口 剛 pp.181-191
〈新〉植民地主義論という光のもとで「沖縄問題」を考える—創り出される現場から—	大野光明 pp.193-207
<b>西川長夫氏へのインタビュー（2011年、於ソウル）</b>	
パリの68年5月革命と日本／韓国への影響	
聞き手：キム・ウォン（金元）、キム・ハン（金杭）／訳：原佑介	pp.209-226

27巻2・3合併号 2016年2月

**児玉徳美先生追悼特集「ことばの日常と非日常」**

序にかえて：児玉徳美先生とヴァナキュラー文化研究会	海寶康臣 pp. 3- 4
談話の冒頭部分における新情報の出現について	伊藤 晃 pp. 5- 15
書き言葉における文頭のAnd	海寶康臣 pp. 17- 26
構文交替と項の変換	工藤和也 pp. 27- 41
なぜ太陽はあるのにお日さまはいるのか	佐野まさき pp. 43- 58
結果構文の翻訳から分かること—push the door open を題材に—	出水孝典 pp. 59- 67
日本語の裸の後置詞に関する覚書	吉田幸治 pp. 69- 76

**国際言語文化研究所プロジェクト A2 研究所重点研究プログラム**

**「バイリンガルの言語脳イメージング研究」特集**

田浦秀幸	
「バイリンガルの言語脳イメージング研究」特集の概要	pp. 77- 79
バイリンガル脳イメージング研究：これまでの研究成果	pp. 81-116
第二言語ナラティブ時の脳賦活データによる言語臨界期説検証研究	pp.117-125
バイリンガル・コードスイッチ脳賦活データによる臨界期仮説検証研究	pp.127-131
大型 fNIRS 機（OMM-3000）と携帯型 fNIRS 機（LIGHTNIRS）の相関性研究	pp.133-143
大型 fNIRS 機（OMM-3000）と簡易 fNIRS 機（PocketNIRS）との相関性研究	pp.145-148
大型 fNIRS 機（OMM-3000）と簡易携帯型脳波計（IBVA）の相関性研究	pp.149-174

**国際言語文化研究所 プロジェクト A1 研究所重点研究プログラム**

**「環カリブ地域における言語横断的な文化／文学の研究」研究報告**

まえがき	西 成彦 p.175
------	------------

プエルト・リコ, 問い直される「正史」		
—ロサリオ・フェレとマヌエル・ラモス・オテロの作品から—	久野量一	pp.177-187
エドゥアール・グリッサンと『アコマ』(1)	中村隆之	pp.189-205
カリブ文学試論—パピアメント語小説の位置	西 成彦	pp.207-215
サン・トメ島—ポリフォニック・クレオール	寺尾智史	pp.217-231
セゼールとモース—脱植民地期の黒人知識人と人類学の対話	佐久間寛	pp.233-245
<b>2014年度「日本人の国際移動研究会」の活動報告</b>		
2014年度「日本人の国際移動研究会」の活動報告		
—ミニ・シンポジウムの開催にあたって—	河原典史	pp.247-248
「ひと」の地理的拡散をいかに有機的に捉えるか—近現代華僑の歴史実証研究より—		
	園田節子	pp.249-250
戦後朝鮮における華僑政策と朝鮮華僑の生業	宋 伍強	pp.251-252
近代広東系華僑のグローバル化：ビジネス・慈善・医療	帆刈浩之	pp.253-255
カナダ史における移民動態の変遷と多文化主義の成立	津田博司	pp.257-258
『南の虹のルーシー』から移民博物館へ		
—2世紀にわたるオーストラリアへの移民の構造と変遷—	藤川隆男	pp.259-260
国家と漁船—1930年代～40年代のハワイ並びにアメリカ西海岸における		
アメリカ合衆国の漁業政策について—	小川真和子	pp.261-262
南洋漁場開拓者原耕の業績とその影響	福田忠弘	pp.263-264
<b>個別論文</b>		
Presse et nucléaire au Japon—De Hiroshima à Tôkaimura (1945-1957) —		
	Tino BRUNO	pp.265-282
Regionale Varietäten im Deutschunterricht — Fluch oder Segen?		
	Thomas HINSKEN	pp.283-293
Étude comparative des pauses silencieuses en français lu par des natifs		
et par des apprenants japonais	Bertrand SAUZEDDE	pp.295-308
L'Imaginaire de l'infiniment petit		
Etude comparée du motif de l'emboîtement nanoscopique dans la science-fiction japonaise		
et anglo-saxonne	Denis TAILLANDIER	pp.309-347
“A + 多 + 了” 与 “A + 得 + 多”	謝 平	pp.349-359

27巻4号 2016年3月

<b>特集 シンポジウム：ノマドとしてのイメージ—ハンス・ベルティンク『イメージ人類学』再考</b>		
『イメージ人類学』から『フィレンツェとバグダット』へ	仲間裕子	pp. 1-10
人類学からみた『イメージ人類学』	吉田憲司	pp. 11-20
ヴァールブルクとイメージの人類学	加藤哲弘	pp. 21-35

写真イメージの人類学—ベルティンクの写真論	前川 修 pp. 37- 48
レンブラントの風景エッチング解釈に向けて	
—オランダ風景画研究史の現在に照らして—	辻 成史 pp. 49- 64
<b>特集 2013—2015 年度萌芽的プロジェクト研究「アフリカの社会変容と笑い研究会」</b>	
巻頭言	岩田拓夫 pp. 65- 67
『略奪婚』と『男性問題』—エチオピアのふたつのコメディ作品にみる	
ジェンダー政治と笑い—	西 真如 pp. 69- 77
フィールドにおける模倣と笑い—熱帯雨林の中のコメディ映像の事例—	
	大石高典 pp. 79- 86
笑いにあふれた世界と窮地—タンザニアの零細商人を事例として—	小川さやか pp. 87-102
アフリカの政治的変容期における笑い	岩田拓夫 pp.103-132
Laughter in Political Transformation in Africa	Takuo IWATA pp.133-155
<b>個別論文</b>	
ニコラオス・ルキデリス著『それが考える』	
—ニーチェのアフォリズムをめぐる歴史哲学的探求—	木本 伸 pp.157-166
発話行為の語用論と文法の接点	
—「修正」の発話行為に見られる配慮表現より—	Lee 風子 pp.167-175

## 28巻1号 2016年9月

### ヴァナキュラー文化研究会企画・連続講演会 講演録

#### 「流体としてのことば、文化、地域」

はじめに	ウェルズ恵子 p. 1
(チラシ)	p. 3
アンダーグラウンドの底力—ヒップホップとアフリカ系アメリカ人文化	
ジェームズ・ブラクストン・ピーターソン／坂下史子 (訳)	pp. 5- 12
The Power of the Underground: Hip-Hop and African American Culture	
James Braxton PETERSON	pp. 13- 20
ポスト・ヒップホップ世代における黒人の地下性—古い問い、新しいアプローチ	
阿津坂祐貴	pp. 21- 36
アバディーンシャーの歌い手たち：スコティッシュ・バラッドのコンテクスト、構造、意味	
トーマス・マケイン／山崎 遼 (訳)	pp. 37- 57
Singing Families of Aberdeenshire: Context, Structure, and Meaning in the Scottish Ballad	
Thomas A. McKEAN	pp. 59- 78
スコティッシュ・トラベラーと「生きている伝承」	山崎 遼 pp. 79- 89
マルコム X の言葉	荒 このみ pp. 91-100
ヴァナキュラー文化としての「赤ずきん」—少女と暴力の物語	ウェルズ恵子 pp.101-114

ハワイの海と日本の海：ハワイでカツオの一本釣り漁を行った日本の漁師さんの物語	小川真和子	pp.115-126
<b>特集「忍び寄るカタストロフィーその多様性と遍在性」</b>		
Table of Contents		pp.127-128
忍び寄るカタストロフィーその多様性と遍在性	井上 彰	pp.129-130
許容可能な不正義？—非理想理論における腐敗の問題	佐野 亘	pp.131-149
カタストロフィとしての戦争—正戦論における比例性原理の検討	松元雅和	pp.151-169
<i>A Coherent Goals-Rights System in the Light of Political Liberalism</i>	Reiko GOTOH	pp.171-182
Disasters, Trust, and Social Cohesion	Eric M. USLANER	pp.183-191
Catastrophes and Time	Paul DUMOUCHEL	pp.193-202
The Coming Evil	Pierre-Henri CASTEL	pp.203-215
Biosecurity Practices in Laboratories and Museums: Sentinels, Simulation, Stockpiling	Frédéric KECK	pp.217-224
「ゲームの継続」のための公共政策		
—懐疑論者による「忍び寄るカタストロフィ」へのアプローチ—	奥田 恒	pp.225-241
他人の介入によって立ち現れるカタストロフィ		
—ディスアビリティの解消をめぐる—	長谷川 唯／桐原尚之	pp.243-254
Corruption as a Slow-moving Catastrophe: A Theoretical Exploration of Corruption in China	Geping NIU	pp.255-263
J・G・バラード『クラッシュ』におけるカタストロフィ		
—世界の終わりの後を生きるために—	越智朝芳	pp.265-280
<b>個別論文</b>		
精神障害者と犯罪者		
デジェネレサンス理論の形成過程に関する一考察	梅澤 礼	pp.281-290
Le paradoxe de Mori Arimasa à propos de l'« expérience »	Laurent RAUBER	pp.291-302

28巻2号 2016年12月

<b>クィア理論と「日本」「近代」「文学」—欲望としてのクィア・リーディング—</b>		
クィア理論と日本文学—欲望としてのクィア・リーディング—	中川成美	pp. 1-4
日本文学をクィア・セオリーで読む：漱石を例に	J. Keith VINCENT	pp. 5-22
対談：キース・ヴィンセント×上野千鶴子	J. Keith VINCENT, 上野千鶴子	pp. 23-36
言語的カオスのクィア・リーディング：テキスト・イメージ・デザイナー	Claire MAREE	pp. 37-45
「青鞥」同人をめぐるセクシュアリティ—言説—一九一〇年代を中心に—		
	呉 佩珍	pp. 47-60
脱政治化という〈性の政治〉—村上春樹「偶然の旅人」を読む—	黒岩裕市	pp. 61-69



「中性」を求めて—多和田葉子のクィア・スタンス—	Tom RIGAULT	pp. 71 - 79
接触と流血の諸相—姫野カオルコ『受難』と映像表現の身体性—	泉谷 瞬	pp. 81 - 92
日本文学における性／交を再考する—欲望の向く身体—	道下真貴, 宮田絵里, 岩本知恵	pp. 93 - 99
総合討議 総括コメント	セシル坂井	pp.101 - 103
<b>モニク・トゥルン講演～飢えを書くということ</b>		
飢えを書くということ	モニク・トゥルン／吉田恭子 (訳)	pp.105 - 108
フィクションあるいは物語としての食物	松本ユキ	pp.109 - 111
聞くということ, 味わうということ		
—モニク・トゥルン氏の講演を聞いて—	下條恵子	pp.113 - 116
Writing Hunger	Monique TRUONG	pp.117 - 120
Reading Food as Fiction: Reflections on <i>Writing Hunger</i> by Monique Truong	Yuki MATSUMOTO	pp.121 - 123
Master Listeners, Master Savorers: A Response to Monique Truong's Lecture	Keiko SHIMOJO	pp.125 - 127
<b>個別論文</b>		
フェルナンド・オルティスの『タバコと砂糖のキューバ的対位法』をめぐる一考察 (1)		
—キューバ性とトランスカルチュレイションについて—	安保寛尚	pp.129 - 146

## 28巻3号 2017年1月

### 2015年度国際言語文化研究所連続講座 「70年目の戦後史再考」

企画趣旨	高橋秀寿	p. 1
<b>第1回「戦後70年—記憶の忘却とその責任」</b>		
戦後70年報道の報告	岡本晃明	pp. 3 - 5
被爆者像のステレオタイプ化に関する一考察		
—映画『純愛物語』からテレビ特撮番組『怪奇大作戦』まで—	山本昭宏	pp. 7 - 16
<b>第2回「戦後京都—小説『金閣寺』とその時代」</b>		
はじめに	西 成彦	pp. 17 - 18
三島由紀夫における「京都」と「戦後」—『金閣寺』を中心として—	南 相旭	pp. 19 - 30
占領期の金閣寺と金閣寺界限—南相旭著『三島由紀夫における「アメリカ」』		
第2章を読むために	西川祐子	pp. 31 - 39
近代京都の景観と金閣寺	河角直美	pp. 41 - 48
<b>第3回「土地所有と民族問題—農地改革を事例に」</b>		
土地所有と民族問題—農地改革から考える—	安岡健一	pp. 49 - 64
<b>第4回「地域からの戦後史再考—福島, 水俣, 沖縄…」</b>		
はじめに	高橋秀寿	pp. 65 - 66

地域からの戦後史再考—福島を中心に—	中嶋久人	pp. 67 - 84
水俣—福島を通して見えてきたもの	山田 真	pp. 85 - 89
もう一つの地図を描きながら、〈地域〉を生きる —沖縄の地域開発をめぐる経験史から—	大野光明	pp. 91 - 100
<b>第5回「敗戦国—「零時」からの70年」</b>		
「敗戦国—「零時」からの70年」を考える	岩崎 稔	pp.101 - 114
記憶の当事者性と植民地主義の忘却	小田博志	pp.115 - 123
<b>特集「日本観」を問いなおす</b>		
コッコジ（韓国いけ花）草創期にみる日本人観	小林善帆	pp.125 - 141
在日コリアン社会のチェサの文化変容—儒教的チェサと仏壇との併祀（へいし）—	李 裕淑	pp.143 - 159
ボストン大都市圏におけるアメリカ市民の日本観	志賀恭子	pp.161 - 181
ドキュメンタリー映画『ミリキタニの猫』から問う日系アメリカ人の戦争の記憶	高橋侑里	pp.183 - 193
<b>個別論文</b>		
The Case for Increasing CLIL in Japanese Universities	Michael James DAVIES	pp.195 - 205
Variations japonaises sur le thème de l'épouse surnaturelle		
Le cas de la Dame Céleste du Lac Yogo	Eric FAURE	pp.207 - 220
森有正の「経験の哲学」における影響と創造	Laurent RAUBER	pp.221 - 231

28巻4号 2017年3月

**特集「風景への眼差しの交叉」**

はじめに	竹中悠美	pp. 1 - 2
Representation of the Non-Representable: Synaesthetic Concepts in Chinese Landscape Painting	Jeong-hee LEE-KALISCH	pp. 3 - 20
Texturing the Landscape: Stone-Engraving Traditions in China as Human Refinement, A Contemporary Position	Shao-Lan HERTEL	pp. 21 - 31
Iconography of Absence: Negoro Lacquers and the Sacred Geography of Their Origin	Antje PAPIST-MATSUO	pp. 33 - 49
Historic Landscapes of Two Spaces for the Steichen Collections in Luxembourg	Yumi Kim TAKENAKA	pp. 51 - 58
Paradise in a Pine Grove: The Gutai Art Association's Outdoor Exhibitions in the Context of the 1950s	Tomoko MAMINE	pp. 59 - 74
Discovery of the Islandscape: The Reception of Paul Gauguin by Japanese Painters in the 1910s	Shoko SUMIDA	pp. 75 - 84

Intertwining Modernities – Painting on the Modernist Stage of Japan

Annegret BERGMANN pp. 85 - 95

An Artist Colony in Kinugasa: “Modernization” of Painters’ Ways of Living

Masako YAMAMOTO MAEZAKI pp. 97 - 105

特集「日本の特区政策の理念と現状 国土開発計画・イノベーション・自由としての開発」

日本の特区政策の特徴と現状 箱田 徹, 橋口昌治 pp.107 - 120

イノベーションと都市—特区政策とクリエイティブ都市論に関する批判的検討  
中倉智徳 pp.121 - 130

規制緩和と人間開発についての研究ノート—経済成長のための政策理念の比較検討—  
村上慎司 pp.131 - 139

特集「主権と空間」

シンポジウム「沖縄に折り畳まれた複数の空間性 いま、なぜ、どのように沖縄現代史を書くか—櫻澤誠『沖縄現代史 米国統治, 本土復帰から「オール沖縄」まで』(中公新書 2015年)をめぐって—

はじめに 高橋秀寿 pp.141 - 142

「島ぐるみ」から「オール沖縄」へ—櫻澤誠『沖縄現代史』が問うもの—  
謝花直美 pp.143 - 145

いま、なぜ、どのように沖縄現代史を書くか—櫻澤誠著『沖縄現代史』との対話  
松田ヒロ子 pp.147 - 150

沖縄現代史におけるコンセンサスの政治と空間性  
—櫻澤誠著『沖縄現代史』への応答として— 大野光明 pp.151 - 158

リプライ 櫻澤 誠 pp.159 - 164

「国境」の活用—八重山地区の安全保障化をめぐる紛争— 樋口直人・松谷 満 pp.165 - 181

連合王国の統治構造—特異な主権概念と不均一な権限移譲— 山崎幹根 pp.183 - 192

ドイツ極右主義—時間／空間の構造的変動と多文化社会— 高橋秀寿 pp.193 - 243

研究ノート

特定目的の英語 (ESP) 教育における対人的メタ機能分析の活用事例  
—海外でのサッカーコーチングのための言語指導をめざして— 西条正樹 pp.245 - 268

29巻1号 2017年9月

2016年度国際言語文化研究所連続講座「越境する民—変動する世界」

企画趣旨 高橋秀寿 p. 2

第1回「マイノリティを語る—イタリアとフランスのいま」

語りかける主体とわれわれ 土肥秀行 pp. 3 - 5

回帰する移民の歴史—文学作品が描くイタリアと移民— 栗原俊秀 pp. 7 - 14

フランスで「移民」が／について書くということ—マグレブ移民をめぐる文学	石川清子	pp. 15 - 29
移民のための文学コンクール エクセトラ賞	山根美奈	pp. 31 - 42
可視性の転覆—アルゼンチンにおける出自と政治	石田智恵	pp. 43 - 57
<b>第2回「フクシマ後の移動—政治思想史の観点から」</b>		
フクシマ後の移動—政治思想史の観点から	宇野重規	pp. 59 - 65
政治思想の「空間論的転回」土地・空間・場所をめぐる震災後の 政治学的課題を理解するために	犬塚 元	pp. 67 - 84
<b>第3回「難民・移民・アイデンティティ—ドイツの経験」</b>		
ドイツにおける他者の記憶と権利—序文に代えて	高橋秀寿	pp. 85 - 87
難民・移民・アイデンティティ=ドイツの経験	梶村太一郎	pp. 89 - 104
ドイツ在住トルコ系移民の社会的統合に向けて —ドイツ社会とトルコ系移民の関係変化—	石川真作	pp. 105 - 114
ドイツにおける難民・移民問題の諸相—連続講座「越境する民—変動する世界」 梶村・石川報告へのコメント	佐々木淳希	pp. 115 - 116
<b>第4回「戦後日本における越境者と出入国管理体制」</b>		
「外国人」を作り出す：占領期日本への移住と入国管理体制	朴 沙羅	pp. 117 - 126
戦後日本の再編と外国人登録法の指紋押捺	高野麻子	pp. 127 - 135
戦後期における出入国管理体制の成立と「非移民国」日本	南川文里	pp. 137 - 144
<b>個別論文</b>		
L'exposition sur les usages pacifiques de l'énergie atomique (1955-1957) — L'exemple de Tokyo et du quotidien <i>Yomiuri Shinbun</i> (1955) —	Tino BRUNO	pp. 145 - 169
非ルクセンブルク人がルクセンブルク語創出に及ぼした影響について	田原憲和	pp. 171 - 184

29巻2号 2017年10月

特集「移民／難民とカタストロフィ」

Migration and Catastrophes Introduction	Paul DUMOUCHEL	pp. 1 - 2
Refugees Searching for a Home Away from Home	Lukas SOSOE	pp. 3 - 12
Welfare State for Trans-Positional Rootless Wanderers	Reiko GOTOH	pp. 13 - 27
Refugees in Japanese America: Immigration, Gender, and Wartime Memories during the 1950s	Fuminori MINAMIKAWA	pp. 29 - 44
The Implication of "3.11" in the Migration Process of Japanese Communities in Australia	Yoshikazu SHIOBARA	pp. 45 - 61
Is it Justifiable to Exclude Immigrants?	Susumu MORIMURA	pp. 63 - 75
Signs of the Times: The Migration of Catastrophe	Chris FLEMING	pp. 77 - 90
Justice for People on the Move	Paul DUMOUCHEL	pp. 91 - 103

移民の倫理学をめぐる一試論：国家に個人を排除する道徳的権利はあるのか	福原正人 pp.105-116
災害難民とコロナリズムの交錯：十津川村の北海道移住の記憶と語り	番匠健一 pp.117-132
<b>特集「アジアにおける技術・芸術と社会のダイナミクス」</b>	
はじめに	西林孝浩 pp.133-134
首里城跡出土ウィローパターン陶片に関する考察 —出土資料と伝世品の比較を中心として—	磯部直希 pp.135-147
不動性の学習 第一課：初期アンダマン民族誌における表象の政治学	中村忠男 pp.149-164

29巻3号 2018年1月

<b>特集「日本の引揚げを地獄的文脈からみる」</b>	
企画趣旨	西 成彦 p. 1
<b>『引揚げ文学論序説』を受け止める</b>	
帝国崩壊と戦後日本のなかの「帝国経験」	蘭 信三 pp. 3-12
引き揚げる多重主体性の加速度をめぐる	小倉紀蔵 pp. 13-19
『引揚げ文学論序説』へのコメント	熊木 勉 pp. 21-24
境界地域史研究から考える引揚げ文学論の意義	中山大将 pp. 25-32
引揚げと「未引揚げ」のあいだ—朴裕河『引揚げ文学論序説』を手がかりに—	原 佑介 pp. 33-43
応答	朴 裕河 pp. 45-51
質疑・総合討論	pp. 53-66
<b>戦争の終わり／引揚げ／強制移住／故郷喪失</b>	
引揚げ文学論の可能性と意義 —帝国史とトランスナショナル・ヒストリーの視点から	浅野豊美 pp. 67-73
ドイツ人の「追放」、日本人の「引揚げ」 —その戦後における語られ方をめぐって—	佐藤成基 pp. 75-89
ドイツ人の東欧からの引揚げや故郷喪失をめぐる文学	永畑紗織 pp. 91-101
故郷喪失のポーランド文学	田中壮泰 pp.103-107
「引揚げ文学」の問いを開く	鷗戸 聡 pp.109-115
コメント	朴 裕河 pp.117-119
質疑・総合討論	pp.121-141
<b>特別寄稿</b>	
Encyclopedias, hive minds and global brains	
A cognitive evolutionary account of Wikipedia	Jos DE MUL pp.143-153

個別論文

- 日本文化における「声」  
カウンターカルチャーとしての旅—社会運動のツーリストティックな側面を通じて  
富永京子 pp.155-173  
Gudrun GRÄWE pp.175-190

29巻4号 2018年3月

国際言語文化研究所 プロジェクト A1 研究所重点プログラム  
「環カリブ地域における言語横断的な文化／文学の研究」研究報告

- まえがき 西 成彦 p. 1
- イヴァン・ゴルとエメ・セゼール  
—1940年代のニューヨークにおける戦時文学場とカリブ海— 福島 亮 pp. 3- 18
- キューバ作家の英語創作と翻訳 久野量一 pp. 19- 28
- エドゥアール・グリッサンと『アコマ』(2) 中村隆之 pp. 29- 50
- 詩が意味するもの—エドゥアール・グリッサン『地、火、水、風』について  
マニュエル・ノルヴァ／中村隆之(訳) pp. 51- 58
- 夢としての民話  
—シモーヌ・シュヴァルツ＝バルト『ティ・ジャン・ロリゾン』 大辻 都 pp. 59- 73
- シモーヌ・シュヴァルツ＝バルト『奇跡のテリユメに雨と風』におけるシスターフッド  
大野藍梨 pp. 75- 89
- アフター『ザ・テンベスト』—脱植民地化と自由 西 成彦 pp. 91- 99
- A Literary Conversation:  
Jean Toomer's *Cane* and Eric Walrond's *Tropic Death* Masako INOUE pp.101-121
- 国際カンファレンス「風景と文学, 文学と風景」
- 序文「風景と文学, 文学と風景」 仲間裕子 pp.123-126
- Edward Hopper, Landscape, and Literature Gail LEVIN pp.127-143
- 無人地帯 No Man's Zone—津波の余波の中のエッセイ・フィルム  
マルコ・ボア／竹中悠美(訳) pp.145-154
- ポピュラー・カルチャーにおける破局の風景—日独比較 高橋秀寿 pp.155-170
- C.D. フリードリヒのロマン主義的風景と文学 仲間裕子 pp.171-183
- ブルースト『失われた時を求めて』にみる風景美学 津森圭一 pp.185-195
- 不可視の都市風景—現代都市と現代文学における「日常空間」— 三木順子 pp.197-209
- 特別寄稿
- 戦時の性暴力と性的搾取—第二次世界大戦下のドイツ軍の場合  
レギーナ・ミュールホイザー／姫岡とし子・小野寺拓也(訳) pp.211-220

個別論文

- Sacral kingship and feminine fecundity: Allegorical images of Ireland in  
Irish-Gaelic aisling poetry Matthew Thomas APPLE pp.221 - 234
- LES DOUZE NAISSANCES DE SUGAWARA NO MICHIZANE Eric FAURE pp.235 - 248
- 日本語初級学習者の筆記テスト時と会話時の脳活動の近似性検証  
—fNIRS データのトレンドグラフと相関分析— 平田 裕 pp.249 - 272
- “是……的”構文について 謝 平 pp.273 - 290

30巻1号 2018年10月

2017年度国際言語文化研究所連続講座「越境する民—接触／排除」

第1回「パイレーツ・モダニティー海賊，奴隷，資本主義」

- はじめに 西 成彦 pp. 3 - 4
- パイレーツ・モダニティー海賊，奴隷，資本主義— 小笠原博毅 pp. 5 - 22
- 陸のユートピア，海賊小説，ムラート—小笠原博毅氏の報告から導かれて—  
久野量一 pp. 23 - 28

第2回「アメリカ合衆国の国境の現在—難民，強制送還，移民制度と「排出」メカニズム」

- 米国における強制送還レジームの構築と移民への影響  
—包摂と排除のメカニズムに着目して— 飯尾真貴子 pp. 29 - 38
- 「人道」から「セキュリティ」へ—対テロ戦争時代の難民排斥— 佐原彩子 pp. 39 - 49

第3回「コンタクトゾーンとしての上海：文学・メディアから浮かび上がる対立の諸相」

- 亡命ユダヤ人美術家D・L・プロッホから見る文化的軋轢と融和の諸相 大橋毅彦 pp. 51 - 60
- 大東亜の〈外国人〉—接触空間としての上海漫画家クラブ— 木田隆文 pp. 61 - 69
- 戦時下上海の日中新聞メディア—支配，抵抗，協力のゆらぎ— 堀井弘一郎 pp. 71 - 83
- コメント 西 成彦 pp. 85 - 88

第4回「チャイニーズ・ドリームの光と影—中国におけるアフリカ系コミュニティの形成と交易」

- 中国における西アフリカ系商人のコミュニティ形成とビジネスの実態  
—広州に生きるアフリカ出身者とチョコレートタウンに焦点を当てる—  
ウスビ・サコ pp. 89 - 109

特集「アジアにおける技術・芸術と社会のダイナミクス」

- はじめに 西林孝浩 pp.111
- 「相同性の誘惑」の世界文学に向かって  
—永井荷風と村上春樹の文学における〈音楽〉— 林 信蔵 pp.113 - 127
- 曹仲達絵画様式の復元 西林孝浩 pp.129 - 160
- 不動性の学習 第二課  
—初期アンダマン民族誌における表象の政治学— 中村忠男 pp.161 - 192

30巻2号 2018年11月

特集「太平洋を渡るベースボールの橋」

Kenichi Zenimura, Japanese American Baseball Pioneer	Bill STAPLES, Jr.	pp. 3- 24
日系アメリカ野球のバイオニア銭村健一郎	Bill STAPLES, Jr. / 吉田恭子 (訳)	pp. 25- 43
片岡勝旧蔵「銭村健一郎送信写真」について	正木喜勝	pp. 45- 49
「『野球』を通してみた移民」から「『移民』を通してみた野球」へ	石原豊一	pp. 51- 61
プロ野球 元助っ人選手を取材して	高野 勲	pp. 63- 70

萌芽的プロジェクト B2「新英語教授法開発研究会」研究報告

継承語教育への translanguaging 導入：海外土曜校でのケーススタディー	田浦秀幸	pp. 71- 90
--	------	------------

30巻3号 2019年2月

特集 シンポジウム『戦争と性暴力の比較史へ向けて』を読む

総合司会・趣旨説明	西 成彦	pp. 3- 5
証言を聴きとることと発表することをめぐっての困難	古久保さくら	pp. 7- 11
目取真俊作品に見る性暴力被害への応答・ポジショナリティ	栗山雄佑	pp. 13- 17
戦時性暴力と文学の関係	中川成美	pp. 19- 23
比較史の可能性と歴史研究者の責務	井野瀬久美恵	pp. 25- 29
執筆者リプライと総合討論		

上野千鶴子, 蘭 信三, 平井和子, 木下直子

茶園敏美, 猪股祐介, 姫岡とし子, 佐藤文香 pp. 31- 50

特集「現代イタリアの知の拡散と集積」

はじめに	土肥秀行	p. 51
1910年代イタリア映画のなかの未来派映画	石田聖子	pp. 53- 69
L'amore, l'idea e la rosa: le radici greche e arabe dell'amor cortese italiano	Roberto TERROSI	pp. 71- 82
Kant e Suzuki: pensiero e intuizione tra Illuminismo e Buddismo Zen	Federica SGARBI	pp. 83- 103
“L'Italia, un Giappone in Europa”: le immagini sovrapposte nel boom dell'Italia del tardo periodo Meiji	Hideyuki DOI	pp. 105- 113
パゾリーニの文学と映画における東洋	グイード・サンタート	pp. 115- 131

都市と伝統的文化

The 'Japanese Palace' in Dresden: A Highlight of European 18th-century Craze for East-Asia.	Cordula BISCHOFF	pp. 133- 148
--	------------------	--------------



ドレスデンの「日本宮殿」——18世紀ヨーロッパにおける東洋への熱狂

コルドウラ・ビショッフ／住田翔子（訳） pp.149-163

### 30巻4号 2019年3月

#### 国際シンポジウム「イタリアの都市における文化的表象」

(国際言語文化研究所 研究所重点プログラム「風景・空間の表象, 記憶, 歴史」)

Ideal Cities Raffaele MILANI pp. 1- 4

理想都市 ラファエレ・ミラーニ／仲間 絢（訳） pp. 5- 8

Gazes and atmospheres: different visions of Venice Federico FARNÉ pp. 9- 17

凝視と雰囲気: ヴェネツィアに関する様々な光景

フェデリコ・ファルネ／エンリコ・コラスルド（訳） pp. 19- 26

City, countryside, and landscape: from pre-urban condition to post-city

Roberto TERROSI pp. 27- 40

都市, 田園そして風景: 都市化以前の状況からポスト・シティ (近代化後の都市) へ

ロベルト・テッロースィ／西澤 藍・片桐亜古（訳） pp. 41- 55

風景の不在と「写生」の誕生

土肥秀行 pp. 57- 69

LANDSCAPES, TOWNSCAPES AND MAPS IN THE OEUVRE OF THE CARRACCI

Giovanna PERINI FOLESANI pp. 71- 90

カラッチ一族の作品にみる風景, 都市景観と地図

ジョヴァンナ・ペリーニ・フォレザーニ／仲間裕子（訳） pp. 91-104

The town, the square and play

Roberto FARNÉ pp.105-117

都市, 広場, 遊び

ロベルト・ファルネ／住田翔子（訳） pp.119-131

#### ヴァナキュラー文化研究の輪郭線

ヴァナキュラー文学の研究——定義・課題・提言

ウエルズ恵子 pp.133-148

#### 個別論文

SUGAWARA NO MICHIZANE N'EST PAS MORT À DAZAIFU

—UNE ÉTUDE DES LÉGENDES À PROPOS DE LA SURVIE DE SUGAWARA NO

MICHIZANE DANS LE DÉPARTEMENT DE KAGOSHIMA—

Eric FAURE pp.149-158

